

IV 選択評価事項C 教育の国際化の状況

1 選択評価事項C 「教育の国際化の状況」に係る目的

(1) 基本的な目標及び国際化に関する目的

本学は、基本的な目標として「三重の力を世界へ：地域に根ざし、世界に誇れる独自性豊かな教育・研究成果を生み出す。～人と自然の調和・共生の中で～」を掲げ、国際化の目的として「三重大学は、国際交流・国際協力の拡大と活性化を図るとともに国際的な課題の解決に貢献できる人材を養成し、大学の国際化を目指す」と設定している。

(2) 法人における中期目標

本学の基本的な目標及び国際化の目的を達成すべく、中期目標において、国際化に関する目標として以下のとおり定めている。

○中期目標（抜粋）

国際化に関する目標

1（学内国際化）

国際交流イベントなどによって、国際感覚が自然に身につく学内の国際化を進める。

2（外国人受入れと学生、教職員の派遣）

留学生、外国人研究者の受入れ体制及び学生、教職員の海外派遣制度を整備し、充実を図る。

3（地域国際化支援）

地域の国際化・国際交流の発展を支援する。

(3) 国際戦略本部及び国際交流センター

また、本学の国際交流・国際協力のさらなる拡大と活性化を図るため、「国際戦略本部」「国際交流センター」を整備し、「学生総合支援センター」と連携しながら、それぞれ以下の目的に基づき、国際化に係る活動に取り組んでいる。

【国際戦略本部】

本学の国際交流の基本方針を策定することを目的とする。

【国際交流センター】

国際交流に関する基本方針に基づき、国際化推進事業及び国際教育・研究活動を通じて、国際的な課題の解決に貢献できる人材を養成し、三重大学及び地域の国際化に寄与することを目的とする。

【学生総合支援センター】

三重大学の学生の修学、就職及び生活等への支援体制を整備し、充実した学生生活の実現を図ることを目的とする。

2 選択評価事項C「教育の国際化の状況」の自己評価

(1) 観点ごとの分析

観点C-1-①：大学の教育の国際化の目的に照らして、目的を達成するためにふさわしい計画や具体的方針が定められているか。また、これらの目的と計画が広く公表されているか。

【観点到る状況】

大学の国際化に関する目的を達成するため、中期目標において「国際化に関する目標」を設定し、この目標を達成するための措置として6年間の中期計画を立て、事業年度毎の具体的な活動内容を年度計画として策定している。これらの目的、中期目標、中期計画、年度計画は、本学ウェブサイトに掲載し、広く公表している。(資料C-1-①-A, 資料C-1-①-B)

さらに、大学の国際化の目的を踏まえ、学長のリーダーシップの下に組織された国際戦略本部(本部長・国際交流担当理事)が、大学の国際連携・国際的学術活動の方向性や国際化戦略を決定し、関連部署である国際交流センター、留学生支援室などと協力して、国際領域での教育、研究、社会貢献に関する計画・方策を提示している。(別添資料C-1-①-1)

本学の国際的活動の実施主体となる国際交流センターでは、本学の国際化に係る目的を実現するため、①海外語学研修、②国際教育コースの設置、③海外での国際理解研修、④国際インターンシッププログラム、⑤国際シンポジウムの開催、⑥ダブルディグリープログラムの6つのプログラムを支援し、その内容を公表している。(資料C-1-①-C)

これらの本学の国際戦略、教育・研究の国際化の目的、実践的な取組は、「三重大学国際交流センター年報」や本学広報誌に掲載するとともに、その内容をウェブサイト上で広く公開している。このほか、オープンキャンパスや入試説明会の機会を通して、多くの高校生、高校教員、保護者に国際化の目的等を周知している。(資料C-1-①-D, 別添資料C-1-①-2)

資料C-1-①-A：三重大学中期計画(抜粋)

(2) 国際化に関する目標を達成するための措置

(①学内国際化)

- 1 インターネットを活用した遠隔授業等により海外大学等との国際交流活動を充実させる。
- 2 国際交流週間、外国人研究者による講演、多文化社会関係のシンポジウムなど三重大学の学生、教職員の国際感覚の涵養につながるイベントを推進する。

(②外国人受入れと学生、教職員の派遣)

- 1 文書、ウェブの英語併記化や共用情報端末の多言語化など外国人留学生・研究者受入れの環境・支援体制の整備を進め、受入れ数を増大させる。
- 2 学生の国際性の涵養を図るため、ダブルディグリープログラム、3大学ジョイントセミナー、海外インターンシッププログラムなどの学生の派遣・受入れプログラムを充実させる。また、名古屋大学と愛知教育大学等と連携してグローバル人材の育成に取り組む。
- 3 三重大学独自の教職員の海外派遣制度を整備し、教職員全体の国際性の涵養を図る。

(③地域国際化支援)

- 1 それぞれの文化の特性を尊重しつつも全体として融合した優れた多文化社会の共創に向けて、多文化に関わる学内の研究成果を活用したシンポジウムや公開講座の開催を推進する。
- 2 地域の国際化・国際交流に資する留学生等による多文化交流プログラムを推進する。

資料C-1-①-B：三重大学年度計画（抜粋）

(2) 国際化に関する目標を達成するための措置

(①学内国際化)

- 1・JICA等と連携してアジアパシフィック・アフリカ地域との交流を推進し、ICTを利用した海外との交流を充実するとともに、国際交流活動を検証し、改善策を策定する。
- 2・学生、教職員の国際感覚涵養のため、国際交流週間及び国際シンポジウム等のイベントを更に充実するとともに、開催したイベントを検証し、改善策を策定する。

(②外国人受入れと学生、教職員の派遣)

- 1・学内文書及びウェブページの多言語化及び本学独自の奨学制度を活用し、外国人留学生・研究者の受け入れ環境を更に充実する。
- 2・本学独自の国際交流助成制度を活用して、派遣・受入プログラムの多様化を図り、充実するとともに「国立大学改革強化推進事業」により大学間連携を活用したグローバル人材の育成に取り組む。
- 3・教職員の国際性の涵養を図るため、協定校との教職員の派遣・受入を推進するとともに、海外派遣制度を検証し、改善策を策定する。

(③地域国際化支援)

- 1・地域の国際化・国際交流を支援するため、各種国際交流団体と連携した日本語教育等の支援及び国際交流活動等を充実する。
- 2・地域の国際化・国際交流を支援するため、教育機関等と連携した多文化交流プログラムに教員や留学生等を派遣するとともに、プログラムを検証し、改善策を策定する。

資料C-1-①-A：三重大学中期計画

http://www.mie-u.ac.jp/disclosure/pdf/20130409_cyukikeikaku.pdf

資料C-1-①-B：三重大学年度計画

http://www.mie-u.ac.jp/disclosure/pdf/20130409_h25nendokeikaku.pdf

資料C-1-①-C：グローバル人材を育成するための6つのプログラム

<http://www.cie.mie-u.ac.jp/about/history/index.html>

資料C-1-①-D：国際交流センター年報

<http://www.cie.mie-u.ac.jp/publications/post-198.html>

別添資料C-1-①-1：今後2年間の国際交流の方針

別添資料C-1-①-2：国際交流（2013年度国立大学法人三重大学概要 p19）

【分析結果とその根拠理由】

本学の基本的な目標及び国際化の目的を達成すべく、中期目標において「国際化に関する目標」が明確に示されており、その目標を達成するための具体的な措置として、中期計画および年度計画が定められている。さらに、大学の国際化の目的を踏まえ、国際戦略本部等において大学の国際連携・国際的学術活動の方向性や国際化戦略を決定している。これらの国際化の方針は、本学広報誌やウェブサイト上で広く公表するとともに、オープンキャンパスや入試説明会の機会を通して、多くの高校生、高校教員、保護者に周知されている。

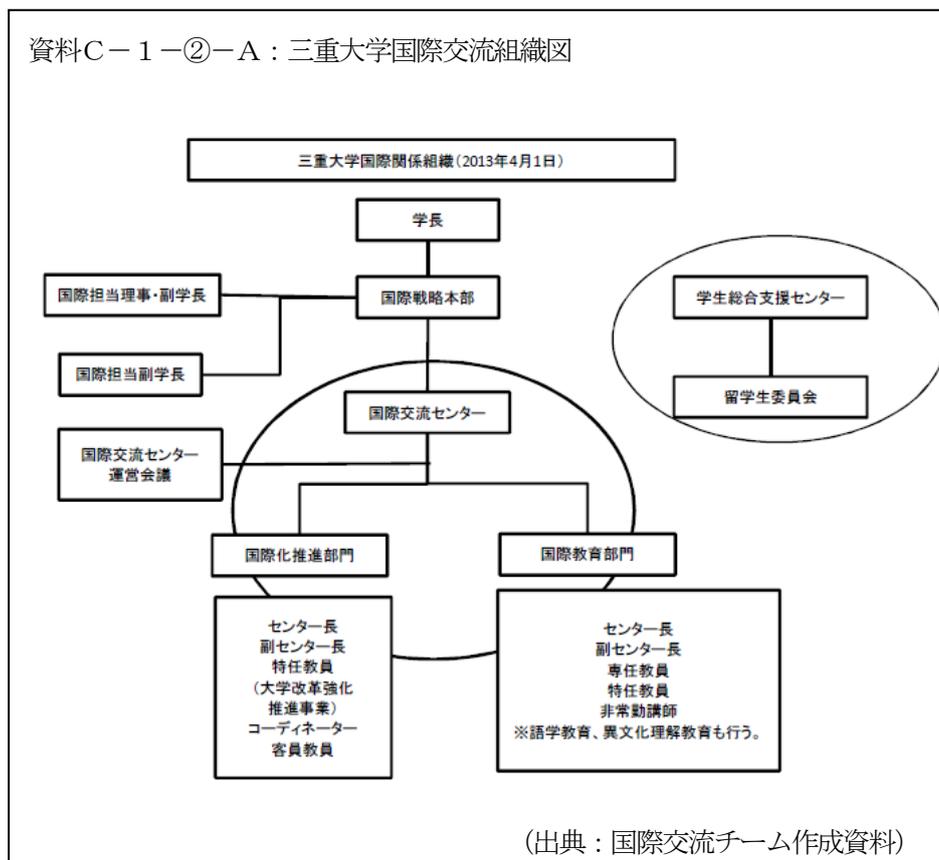
以上のことから、大学の国際化の目的に照らして、目的を達成するためにふさわしい計画や具体的方針が定められているとともに、これらの目的と計画、具体的方針が適切に公表されていると判断する。

観点C-1-②： 計画に基づいた活動が適切に実施されているか。**【観点に係る状況】**

本学の中期目標に定められた“大学の国際化”に向けた方針は、その目標を達成するための中期計画、年度計画のなかで具体化されている。中期目標では、「学内国際化」「外国人受入れと学生、教職員の派遣」「地域国際化支援」を掲げ、これらの目標の達成に向けて、中期計画、年度計画に基づき、組織改革、教員能力の向上、数値目標の設定、海外拠点形成、新規教育プログラムの開発、適切な評価に基づくPDCAサイクルの実践などに取り組んでいる。

本学では、国際化推進組織として国際交流センターを設置し、また、学生支援を担当する学生総合支援センターが留学生への支援を行うとともに事務組織として留学生支援室を設置している（別添資料C-1-②-1、別添資料C-1-②-2）。国際交流センターが海外大学との交流、国際化に関する国内機関・地域との連携を担当し、留学生支援室が海外からの留学生及び海外へ派遣する学生への支援を担当している。分業化により、業務の効率化が図られる一方で、大学としての国際化・留学生受入れの方針が不統一になることが危惧されたため、これを回避するため、2013年4月に学長直轄の組織として「国際戦略本部」を設置した（別添資料C-1-②-3）。さらに、国際交流センター内の部門を改組し、国際化推進部門と国際教育部門を設置した。国際化推進部門には、JICAからの出向教員を採用しており、アジア・アフリカの開発途上国・新興国を重点地域として交流の促進を図る体制を整備する計画を進めている。また、国際教育部門には、語学教育・異文化理解教育を担当する教員を重点的に配置した（資料C-1-②-A）。

資料C-1-②-A：三重大学国際交流組織図



① 「学内国際化」に係る取組

中期目標の一つである「学内国際化」に向けては、外国人教員雇用拡大のための雇用経費支援、外国語ができる常勤職員の配置を行った。

授業改善による「学内国際化」への取組みとして、「英語で授業をする」をテーマにしたFD活動やICTを利用した海外との遠隔授業の実施、後述の英語による国際教育科目の設置などを行っている(資料C-1-②-B)。工学研究科では、国際化を推進する「国際教育科目」を設置するとともに「工学研究科国際シンポジウム」を開催し、英語による研究成果発表を行わせる取組みを開始し、医学部医学科では専門教育科目での語学担当外国人教員を雇用し、6年間を通じて実践的医学英語教育を行う体制を整備した。地域イノベーション学研究科では、学生が英語で国際的な情報発信する場として「地域イノベーション学に関する国際ワークショップ」を実施しており、海外の大学教員を招待し、国際的な交流を行っている。

また、毎年12月には、三重大学国際交流週間を実施し、学生、教職員の国際感覚の涵養につなげている(別添資料C-1-②-4)。

② 「外国人受入れと学生、教職員の派遣」に係る取組

第二の中期目標である「外国人受入れと学生、教職員の派遣」については、学術交流大学の拡充や3大学国際ジョイントセミナー&シンポジウムの実施(別添資料C-1-②-5)、海外拠点「三重大学教育研究センター」の開設などにより、教員・学生の派遣・受入基盤の整備を進めている(資料C-1-②-C)。また、海外からの留学生受け入れ拡充に向けて、GPAによる単位の実質化、10月入学を実施している。

学生派遣・受入のための具体的取組みとして、国際交流センターを中心に、資料C-1-②-Dのような学生派遣・受入のためのプログラム(国際キャリアアッププログラム)を推進している。

資料C-1-②-D：国際キャリアアッププログラム

■ 国際キャリアアッププログラム

国際的に活躍できるグローバル人材を育成するため、以下の6つのプログラムを推進しています。

- (1) **語学研修**：海外の協定校で、英語・ドイツ語・中国語の語学研修を実施しています。
- (2) **英語等による国際教育コース**：①英語等によるコミュニケーション能力向上、②留学生と日本人学生が異文化理解を深めること、③国際インターンシッププログラムや3大学国際ジョイントセミナー&シンポジウムへの参加、④海外留学などの活動を支援するために、共通教育の統合教育科目や国際交流センター独自の教育コースを開講しています。
- (3) **短期国際教育**：海外の協定校との連携（韓国・タイ・ベトナム・インドネシア）による海外の大学での授業参加や異文化体験を通じて、国際理解を深めています。
- (4) **国際インターンシッププログラム**：韓国・タイ・ベトナム・マレーシアなどの協定校と相互に学生の派遣・受入れを行い、就業体験、教育及び研究などの機会を提供しています。
- (5) **3大学国際ジョイントセミナー&シンポジウム**：1994年から三重大学、チェンマイ大学（タイ）、江蘇大学（中国）の3大学、2011年からボゴール農科大学（インドネシア）を核として複数の大学が参加し、人口、食料、エネルギー、環境などをテーマとする学生の英語による研究発表と交流の場を提供しています。毎年各大学が交代で開催しており、第20回目となる2013年は、三重大学で記念大会を開催する予定です。
- (6) **ダブルディグリープログラム（複数学位取得制度）**：本学と海外の大学とが学位授与に関する協定を結び、両大学の学生が双方の大学に在籍し、必要な単位を修得することにより両大学の学位を取得するダブルディグリープログラムを、学部レベルで天津師範大学（中国）と、大学院レベルでスリウィジャヤ大学及びパジャジャラン大学（インドネシア）との間で実施しています。



（出典：2013年度国立大学法人三重大学概要）

また、学部・研究科においても大学の国際化の目的に基づき、それぞれの特色を活かした学生派遣・受入のための独自のプログラムを実施している。

さらに、国立大学改革強化推進事業として採択された三重大学、名古屋大学、愛知教育大学の3大学連携による「アジアを中心とする国際人材育成と大学連携による国際化の加速的推進」事業を活用し、留学生受入れ体制の整備を進めている（別添資料C-1-②-6）。

そのほか、JICA研修、JICE 21世紀東アジア青少年大交流計画等にも積極的に協力し、海外学生と本学学生との交流の場を創出している（別添資料C-1-②-7）。今後、本学では年間400人程度（短期滞在者も含む）まで海外からの留学生を増加させる計画であり、留学生宿舎の増築を計画し、2014年度年度着工を目指している。

本学の教育活動については、ウェブサイトでは、英語による教育研究内容の紹介、英文刊行物の公表を行っている（資料C-1-②-E）。さらに外国人留学生に対しては、国際交流センターと学生総合支援センターとの連携による本学独自の経済支援をはじめ、様々な支援活動を実施している（資料C-1-②-F）。

資料C-1-②-F：留学生受入れの環境・支援体制

事項	取組内容
ビザ代理申請制度	留学生の在留資格認定証明書を留学生支援室が代理申請
留学生ガイダンスの実施	新渡日の留学生を対象として年2回（4月と10月）、資格外活動、在籍確認、健康保険の加入等の日本での生活に重点をおき、国際交流チーム職員による通訳を交えて実施
留学生ガイドブックの作成	留学生が学内・学外で知っておくべき学習・生活面のガイドブックを日本語、英語、中国語で作成し留学生に配布
留学生データベースの構築	留学生データベースを利用して、在籍確認、資格外活動の管理、VISA更新の管理、メールアドレスの管理、現住所と本国連絡先等を一元的に管理

機関保証制度	留学生が民間アパート等を借りる時に、大学が機関保証人となる
留学生会の設立	留学生間及び大学との交流を促進することを目的に 7 グループから構成される留学生会の設置。留学生支援室 と毎月 1 回の情報交換会を開催
留学生メールマガジンの配信	登録されたメールアドレス（携帯電話を含む）に定期的（月 1 回）に、大学から重要な連絡事項を日本語と英語で配信
留学生の生活サポート	新渡日の学生の出迎え、住民登録、健康保険の加入等の各種手続きの支援
日本人チューター制度	日本人学生（チューター）が新渡日の留学生に生活・日本語学習補助等を行う
入学時の健康診断	入学願書の必要書類の中で健康診断書を不要とし、入学後に学内の健康診断を受診することを徹底
国際交流センターe-ラーニングブース	留学生及び日本人学生のための自習スペース。総合研究棟 II に設置
オフィスアワー制度	国際交流センター教員が、毎週時間をきめて留学生の相談を受ける制度
本学独自の奨学金制度	①「国際交流特別奨学生制度」：協定大学からの短期留学生を対象として、年間 20 名に月 2 万円の奨学金を支給 ②「外国人留学生助成金」、「タイ人留学生助成金」：本学の名誉教授からの寄附金を基に優秀な留学生に対し奨学金を支給
国際交流センターウェブサイトの実	入学案内、教育の参考資料、キャンパスライフ、国際交流関連ニュース、奨学金等の情報を掲載（英語版・日本語版）。 http://www.cie.mie-u.ac.jp/en/cier/prospective/
留学生宿舎の整備	大学の自己資金により 2008 年度に新学生寄宿舎（84 戸）を建設し、これまでに収容定員 149 人の留学生宿舎を整備。 http://www.cie.mie-u.ac.jp/life/housing/housing.html さらに外国人留学生、短期滞在留学生の生活環境の充実を図るため、借入金を含めた自助努力により留学生宿舎（収容定員 87 人）の新設を進めており、日本人学生もチューターとして入居させることで外国人留学生との共同生活の中で異文化を学ぶ機会を設ける。
日本人学生による日本語サポート	日本人のボランティア学生が授業の空きコマを利用して留学生の日本語学習のため日常会話の相手や、漢字の読み方や意味の指導を行う。
留学生へのホストファミリーの紹介	「セカンド・ホーム」：津市を中心とする国際交流市民団体「ホームステイ・イン津」の協力により 1999 年より続いているホストファミリー・プログラム。 津市内の一般家庭に週末に宿泊することにより地域住民との交流を図る。
短期間ホームステイ事業	「ゴールデンウィークホームステイ」：ゴールデンウィークに留学生が津市内の一般家庭にホームステイをするプログラム。津市と津市国際交流協会との共催により実施している。
私費外国人留学生優遇制度	本学独自の取組みとして、海外の協定校から本学の修士課程・博士課程に入学する優秀な留学生に対して入学金及び授業料の全学免除を実施
日本語教育コースの設置	三重大学在学のすべての留学生がそのニーズと日本語能力に応じて受講することができる

	http://www.cie.mie-u.ac.jp/class/info/index.html
留学生への就職支援	<p>○キャリアサポートセンターウェブサイト（留学生への求人情報） http://www.mie-u.ac.jp/employment/students/post-2.html</p> <p>○国際交流センター「雇用・就職のための企業と留学生の交流会」 http://www.cie.mie-u.ac.jp/new/post-113.html</p> <p>○人文学部留学生セミナー http://www.human.mie-u.ac.jp/event/post-15.html</p>

これらの留学生支援活動以外にも、私費外国人特別入試の実施、ダブルディグリー協定校を会場とした海外入試の実施を通して本学への留学希望者への便宜をはかっている。また、学生総合支援センターのある総合研究棟Ⅱには、保健管理センター及び留学生支援室が設置されており、これらの複数の学内共同センターとの有機的連携により、修学・就職・生活・健康の全てを網羅したワンストップサービスを提供できる学生支援体制を実現している（資料C-1-②-G）。

③「地域国際化支援」に係る取組

中期目標の三番目に掲げた「地域国際化支援」では、三重県知事を含む県のブラジル訪問団に同行し、学術面での三重県とサンパウロ州との交流拡大に貢献した（資料C-1-②-H）。また、先述の三重大学国際交流週間の中でも留学生と地域の方との交流の場を設けている。

資料C-1-②-B：英語による国際教育科目

<http://www.cie.mie-u.ac.jp/class/international-education/index.html>

資料C-1-②-C：海外拠点「三重大学教育研究センター」

<http://www.cie.mie-u.ac.jp/base/post-47.html>

<http://www.cie.mie-u.ac.jp/base/post-49.html>（インドネシア・スリウィジャヤ大学）

資料C-1-②-E：三重大学英语版ウェブサイト

<http://www.mie-u.ac.jp/en/>

資料C-1-②-G：学生総合支援センター組織図

<http://www.mie-u.ac.jp/life/about/structure.html>

資料C-1-②-H：学長ブラジル訪問（三重大学 Flash News No. 123）

<http://www.mie-u.ac.jp/report/flash/123.pdf>

別添資料C-1-②-1：三重大学国際交流センター規程

別添資料C-1-②-2：三重大学事務組織規程〈留学生支援室抜粋〉

別添資料C-1-②-3：国際戦略本部規程

別添資料C-1-②-4：「第7回三重大学国際交流週間2013」ポスター

別添資料C-1-②-5：3大学国際ジョイントセミナー&シンポジウムポスター

別添資料C-1-②-6：アジア連携高等教育機構概念図

別添資料C-1-②-7：21世紀東アジア青少年大交流計画

【分析結果とその根拠理由】

教育の国際化に向けて、全学的教育活動および学部・研究科教育活動が多角的に実践されており、中期目標に掲げる「学内国際化」「外国人受入れと学生、教職員の派遣」「地域国際化支援」が中期計画、年度計画に基づき、順調に推進されている。これらの活動は、継続性・発展性のある活動に成熟しつつあり、その目標・計画に沿って適切に実施されていると判断する。

観点C-1-③： 活動の実績及び学生の満足度等から判断して、活動の成果が上がっているか。

【観点到係る状況】

本学では、学生の満足度調査を実施しており、関連項目「5. 留学支援や国際交流」では、高い評価を得ている（別添資料C-1-③-1）。

①「学内国際化」に係る活動の実績

外国人教員の増加に向けた本学独自の取組として2009年度から外国人特任教員（教育担当）に係る雇用経費の50%を大学事務局予算で支援しているが、それに加えて、2012年度からは2人目以上の外国人教員を雇用する場合は80%を大学事務局予算にて支援することとしている。この施策により外国人教員採用数は一定の水準を維持する状況になっている（資料C-1-③-A）。

事務組織においても、留学生支援室に留学経験や海外在住経験のある外国語ができる常勤職員を配置しており、留学生からの相談に対して迅速に対応できるようになっている。

教育の国際化を担う教員養成を目指す全学規模のFDや研修会を2010年度以降、継続実施しており、毎回、多くの教員が参加している（資料C-1-③-B）。

国際交流センターで実施した英語による国際教育科目の2013年度の開講科目は21科目で、これら科目には、前期に日本人学生96名、外国人留学生59名が、後期に日本人学生87名、外国人留学生64名が受講した（別添資料C-1-③-2）。

ICTを利用した遠隔授業の実施については、教育学部「遠隔授業教室」におけるミシガン大学、シドニー大学との遠隔授業や、医学系研究科の大学院医学セミナーの中にハーバード大学等の講師による遠隔対話形式のセミナーを設けるなど、海外教育機関との英語による授業を実施している（別添資料C-1-③-3）。

工学研究科で2012年度に新規開講した国際教育科目では、338名（2013年度）が実践的な英語科目を履修している（資料C-1-③-C）。「工学研究科国際シンポジウム（2日間コース）」には、大学院生を中心に約400名が参加し、博士前期課程学生の半数が英語による研究成果発表を行った（資料C-1-③-D）。また、地域イノベーション学研究科では、研究科が発足した2009年度より「地域イノベーション学に関する国際ワークショップ」（2日間）を年1回実施しており、これまでに博士前年期課程57名と博士後期課程32名の学生が英語による研究成果発表を行った（資料C-1-③-E）。

「三重大学国際交流週間2013」では12月11日の日本語スキットコンテストを皮切りに、「留学生のための研修旅行」など、計14のイベントを実施し、期間中に延べ約1400名の留学生、本学学生、教員、地域関係者が参加した（別添資料C-1-③-4）。

①「外国人受入れと学生、教職員の派遣」に係る活動の実績

外国人受入れと学生派遣に関する取組みでは、海外拠点を活用したダブルディグリープログラムを推進、国立大学改革強化推進事業、学術交流大学の拡充や3大学国際ジョイントセミナー&シンポジウムの実施などを推進

し、活動実績を上げている。また、学部・研究科での取組みも含め、主な外国人学生の受入れや学生派遣に関する活動の成果を（資料C-1-③-F、資料C-1-③-G）に示す。

資料C-1-③-F：国際交流センターを中心とする外国人受入れ・学生派遣に関する取組実績					
事 項		活 動 の 成 果			
国 際 キ ャ リ ア ア ッ プ プ ロ グ ラ ム	語学研修	<p>研修の実施概要と活動内容を国際交流センター年報 2012 に掲載し、その内容をweb上で広く公開している</p> <p>【国際交流センター年報 2012】海外語学研修実施概要 p31</p> <p>http://www.cie.mie-u.ac.jp/Annual%20Report%202012.pdf</p>	2011年度	2012年度	2013年度
		参加人数	29名	28名	28名
	短期国際教育(フィールドスタディ)	<p>研修の実施概要と活動内容を国際交流センター年報 2012 に掲載し、その内容をweb上で広く公開している</p> <p>【国際交流センター年報 2012】短期国際教育(フィールドスタディ)参加報告 p42</p> <p>http://www.cie.mie-u.ac.jp/Annual%20Report%202012.pdf</p>	2011年度	2012年度	2013年度
		参加人数	20名	17名	19名
	国際インターンシッププログラム	<p>国際インターンシッププログラム参加者はインターンシップ参加後、報告会において実験実習等の成果発表を行うとともに、参加報告書や参加者の感想はweb上でも広く公開している</p> <p>【報告会】 http://www.cie.mie-u.ac.jp/iip/post-160.html</p> <p>【報告書】 http://www.cie.mie-u.ac.jp/iip/post-158.html</p> <p>【参加者の感想】 http://www.cie.mie-u.ac.jp/iip/post-189.html</p>	2011年度	2012年度	2013年度
		参加人数	派遣	6名	12名
		受入	6名	4名	10名
	3大学国際ジョイントセミナー&シンポジウム	<p>3大学国際ジョイントセミナー&シンポジウムは、本学が中心となりタイ・チェンマイ大学、中国・江蘇大学と協力して、1994年から毎年開催してきた。参加者は、これら3大学に留まらず、これらの大学と交流のある大学から100名以上の学生と教員が参加する国際的な学術活動に成長している。2011年には、インドネシア・ボゴール農科大学がホスト大学に加わり、東アジア・東南アジア諸国の大学関係者が共に学び、交流する機会になっている。</p> <p>2013年には20回記念大会を本学で実施し、タイ、中国、インドネシア、マレーシア、ミャンマー、ロシア、韓国などから合計117名の参加があった。</p> <p>【参加報告書】</p> <p>http://www.cie.mie-u.ac.jp/publications/post-107.html</p>			
	ダブルディグリープログラム(複数学位取得制度)	<p>本学のダブルディグリープログラムは、学部レベルで教育学部と天津師範大学(中国)と、大学院レベルでは生物資源学研究所とスリウィジャヤ大学との間で実施しており、2013年度からはパジャジャラン大学(インドネシア)が加わるなど事業の充実が図られている。</p>			
	アジアを中心とする国際人材育成と大学連携による国	<p>①国際交流センターの国際化推進部門に JICA からの出向者を特任教員として雇用し、本学の国際化に係る実施体制の強化を図った。</p>			

際化の加速度的推進」事業による留学生受入態勢の整備	②留学等の学生向け情報発信の強化，学生の外国語能力向上のため学習等の機会提供，留学生と日本人学生の交流促進を目的として，電子掲示板や，学生用eラーニングブース等を整備し，学内の国際交流環境の充実を図った。
海外の大学との学術交流協定の締結	海外の大学との学術交流協定の締結については，2011年5月現在で31か国・71大学であったものが，2014年5月現在で35か国・92大学に拡大し，本学の国際交流活動の実績がこれらの件数にも表れている（別添資料C-1-③-5）。

資料C-1-③-G：学部・研究科における外国人受入れ・学生派遣に関する取組み

事 項	活 動 の 成 果			
人文学部	①韓国世宗大学と国際インターンシップを実施しており，これまでに派遣・受入ともに着実な実績を上げている。本事業に派遣した学生に対して単位認定も行っている。			
		2011年度	2012年度	2013年度
	参加人数	派遣 0名	5名	4名
		受入 3名	3名	2名
	②2012年度よりイギリスのオックスフォード大学ハートフォードカレッジにおいて，学部主催による2週間の短期語学研修を開始。2012年度は9名，2013年度は8名の学生が参加。単位化を含めた制度設計についても検討を進めている。			
教育学部	海外の小中学校の教育現場と日本の教育現場の比較体験や，学校教育と教員をめぐる諸課題に関する国際的な視野を広げることを目的に，オークランド大学教育学部における教育研修を実施している。2013年8月には学部間協定も締結した。			
		2011年度	2012年度	2013年度
	参加人数	9名	10名	10名
医学部	海外臨床実習は，医学部医学科の第6学年学生が欧米の病院だけでなく，アジア・アフリカの開発途上国・新興国にある病院での臨床実習に参加している。			
	早期海外体験実習は，海外保健医療への早期暴露を目的に医学科第1-4学年学生および看護学科学学生が参加する教育活動として定着している。本活動に対する学生からの評価は高く，実践的語学力・コミュニケーション力，異文化理解，医療格差・医療経済の認知などを学ぶことができると評価されている。また，6年間の医学教育カリキュラムを通した専門語学教育，体系的国際保健医療教育，体験型海外実習が実践されている。これらの医学教育の国際化事業は，二つのGPの採択を受けて実施したが，事業終了後の文部科学省による現地調査においても高い評価を受けた。これら途上国への学生派遣事業は，2013年度にはザンビア大学，本学及び藤田保健衛生大学との3大学での取り組みに発展するなど活動の成果を上げている。			
	【大学教育推進プログラム現地調査報告書】 http://www.jsps.go.jp/j-pue/data/jyokyo_download/genchi_chousa/01_mie.pdf			
医学系研究科	大学院国際推薦制度では開発途上国・新興国にある協定大学からの留学生を毎年2名，本学医学系研究科生命科学専攻（博士後期課程）に受け入れている。本制度に採用された留学生は入学金，授業料，住居費，渡航費等を研究科経費により支援される。			
	http://www.medic.mie-u.ac.jp/grad/admission/kokusai.php			
	2014年3月には本国際推薦制度の取組みを基盤とした，文部科学省国費外国人留学生優先配置を行う特別プログラム「アジア・アフリカにおける保健医療人材育成ネットワーク			

	形成プログラム」が採択された。		
工学研究科	国際教育科目の中で「国際インターンシップ」「短期留学」が授業科目として設置されており、工学研究科独自の取組みとして、毎年、学生の海外派遣を行っている。		
	参加人数	2011年度 13名	2012年度 29名
生物資源学研究科	国際交流センターが実施する国際インターンシッププログラムとの共同体制により、同プログラム参加学生に対し、生物資源学研究科博士前期課程の選択必修科目「国際インターンシッププログラム」として単位認定を行う。		
地域イノベーション学研究科	英語版の学生募集要項を作成し、これにより2012年度にインドネシアから2名の博士後期課程学生を受け入れた。		

GPAに関しては、2010年4月に「三重大学におけるGPA制度の取扱いに関する要項」によりGPA算出の制度を定め、単位の実質化を図ると共にウェブシラバス等で広く周知している（資料C-1-③-H）。

また、本学では10月入学を実施しており、10月入学者のうち約半数が外国人留学生である（資料C-1-③-I）。

外国人学生の支援については、前述の（観点C-1-②）のとおり、国際交流センターと学生総合支援センターの連携により様々な活動を行っており、これら取組みの成果は、学生の満足度調査「5. 留学支援や国際交流」に表れている。（前掲資料C-1-③-1）

外国人学生に向けた就職支援の成果として、本学留学生の卒業後の日本国内就職割合は年々増加している（資料C-1-③-J）。

外国人留学生のための入学試験の取組みとして、2013年度は12名の私費外国人留学生が特別入試により入学している（資料C-1-③-K）。また、2012年12月18日には、スリウィジャヤ大学大学院を会場として、大学院博士前期課程入学試験のダブルディグリープログラム外国人特別選抜を行い、スリウィジャヤ大学とのプログラムに3名、パジャジャラン大学とのプログラムに4名の学生が合格し、2013年4月より三重大学での留学生生活を開始した（資料C-1-③-L）。

③「地域国際化支援」に係る活動の実績

「地域国際化支援」では、サンパウロ大学との国際協力に関する基本合意書の調印、ペルー国立ラ・モリーナ大学との大学間学術交流の締結を行った。また、国際交流週間事業の一つである「Hand in Hand! みえの地球市民2013」では国際貢献・交流活動の発展を目的に近隣大学と協力した多文化社会づくりの交流が行われ、近隣住民も含め約300人が参加した（資料C-1-③-M）。

資料C-1-③-A：外国人教員数

	2011年度	2012年度	2013年度
常勤教員	11	11	12
特任教員（教育担当）	5	6	7
計	16	17	19

（出典：人事チーム提供資料を基に作成）

資料C-1-③-B：三重大学全学FD「英語で授業する」開催状況

開催日	テーマ	参加人数
2013年7月19日	CLIL (Content and Language Integrated Learning)を取り上げ、その方法、意義や有効性について	約20名

2012年7月13日	IELTS (英語力の検定試験) の重要性およびケンブリッジ大学で新たに提唱された CLIL (内容言語統合学習) の手法について	約20名
2011年11月18日	第1部:なぜ「英語で授業する」? 第2部:「英語で学ぶ秘訣」とアクティブ・ラーニング	23名
2011年11月26日	『大学教員のための教室英語表現300』	44名

(出典: 本学ウェブサイトを基に作成)

資料C-1-③-C: 工学研究科国際教育科目

	2011年度	2012年度	2013年度
履修学生数	117名 (※試行実施)	370名	338名

(出典: 工学研究科提供資料を基に作成)

資料C-1-③-D: 第2回工学研究科国際シンポジウム

<http://www.eng.mie-u.ac.jp/research/symposium/> 【概要】<http://www.mie-u.ac.jp/topics/kohoblog/2012/11/2-4.html> 【開催報告】

資料C-1-③-E: 地域イノベーション学に関する国際ワークショップの発表件数 (2009-2013年度)

	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	合計
海外からの招待講演	2	1	1	2	2	8
博士前期課程学生	10	11	9	13	14	57
博士後期課程学生	5	10	7	7	3	32

(出典: 地域イノベーション学研究科提供資料を基に作成)

資料C-1-③-H: 成績評価及びGPAについて

<http://www.mie-u.ac.jp/students/classwork/Seiseki-GPA.html>

資料C-1-③-I: 10月入学者数

	2011年10月	2012年10月	2013年10月
10月入学者数	21	32 (※)	21
うち留学生数	8	24 (※)	10

※2012年10月入学者数には教育学部ダブルディグリープログラム入学者12名を含む

(出典: 留学生生支援室提供資料を基に作成)

資料C-1-③-J: 留学生 (正規生) 進路状況

	区分	卒業・修了者	卒業・修了者の内訳				
			就職者			進学者	その他
			就職: 日本	就職: 海外	計		
2010年度	学部	15	3	1	4	3	8
	大学院	38	2	1	3	3	32
2011年度	学部	27	1	6	7	14	6
	大学院	43	12	8	20	2	21
2012年度	学部	6	3	0	3	1	2
	大学院	44	16	7	23	1	20

(出典: 就職支援チーム作成資料)

資料C-1-③-K: 私費外国人留学生を対象とした特別入試実施状況

	志願者数	受検者数	合格者数	入学者数
2011年度	101	96	26	13
2012年度	105	98	20	10
2013年度	87	82	18	12

(出典: 入試チーム作成資料)

資料C-1-③-L：ダブルディグリープログラムの海外入試

<http://www.cie.mie-u.ac.jp/new/20100108.html>

資料C-1-③-M：「Hand in Hand! みえの地球市民2013」実施報告

<http://www.cie.mie-u.ac.jp/event/hand-in-hand-2013.html>

別添資料C-1-③-1：平成24年度三重大学教育満足度調査報告書

別添資料C-1-③-2：英語による国際教育科目・履修者数一覧（H23～H25）

別添資料C-1-③-3：遠隔授業開催実績

別添資料C-1-③-4：第7回三重大学国際交流週間2013実施概要（参加人数含む）

別添資料C-1-③-5：国際交流協定締結機関一覧

【分析結果とその根拠理由】

海外との学術交流協定の拡充、3大学国際ジョイントセミナー&シンポジウムを始めとする国際シンポジウムの開催、外国人留学生受入れ拡大への取組み、留学生支援体制の整備、語学研修・海外フィールドスタディー・国際インターンシップ・海外臨床実習などの海外体験的学習機会の創出などが実績として上げられる。これらの活動は、外部評価で高く評価されるとともに、他大学を含めた事業への発展など良好な成果を上げている。これら活動の成果は文部科学省の国費留学生優先配置プログラムの採択や、在学生を対象にした満足度調査結果にも表れている。

以上のことから、本学の国際化に関する取組は活動の実績及び学生の満足度等から判断して、活動の成果が上がっていると判断する。

観点C-1-④： 改善のための取組が行われているか。

【観点到に係る状況】

本学では学長のリーダーシップの下に国際戦略本部を設置し、国際戦略本部会議において、国際交流の基本ポリシー、国際交流協定、国際交流基金の管理運用等に関する協議・報告を行っている。また、国際化を推進するための実行部門としての国際交流センターを運営するため、国際交流センター運営会議が設置されている。外国人留学生の受入れや修学及び生活の援助、学生の海外派遣に関しては留学生委員会において、協議・報告を行っている。これら3つの会議を中心として、本学の国際化に関する検証と改善活動に向けた検討を行っている（前掲資料C-1-②-A）。

国際戦略本部会議では、国際交流協定校との交流について、これまでの実績並びに今後の活動計画を示しながら検証を行っており、今後の国際交流の実質化に向けた改善に取り組んでいる。国際交流センター運営会議では毎年度当初に年間の活動計画を示すとともに、各事業が終了した際に、それぞれの担当委員から事業の実施報告が行われており、今後の改善活動に役立っている（別添資料C-1-④-1、別添資料C-1-④-2）。

2013年度の留学生委員会では、留学生の支援体制の強化に関して、これまでの留学生支援体制を検証しつつ、今後、更なる支援体制を強化する方針が打ち出され、その方針は本学の教育研究評議会を通じて、全学にフィードバックされた。（別添資料C-1-④-3）

また、これまでの国際化に関する活動を踏まえ、「国際医療支援センター」「バイオエンジニアリング国際教育研究センター」「国際環境教育研究センター」を学内組織として新たに設置するなど、多分野融合領域での国際的な教育研究活動を行うためのセンターを充実させている。

別添資料C-1-④-1：学術交流協定校との交流実績及び計画等について
 別添資料C-1-④-2：国際交流センター運営会議議事概要
 別添資料C-1-④-3：25-7 教育研究評議会資料

【分析結果とその根拠理由】

国際戦略本部会議、国際交流センター運営会議、留学生委員会ともにこれまでの活動に関する協議や報告を通じて事業の検証を行っており、今後の改善活動に役立てている。特に2013年度に作成した留学生の支援体制の強化に関する方針については、毎月1回の在籍確認の他に各留学生の指導に関わる教員の定期的な面談、緊急的経済支援を要する留学生の把握、生活ルールの指導徹底など、より一層の改善が図られている。また、これまでの活動を踏まえ、国際的な教育研究活動を行うための学内組織を充実させている。

以上のことから、教育の国際化に関して改善のための取組みが行われていると判断する。

(2) 目的の達成状況の判断

大学の「国際化に関する目標」は中期目標において明確に定められ、この目標を達成するための措置として6年間の中期計画を立て、事業年度毎の具体的活動内容を年度計画として策定している。これらの中の「学内国際化」「外国人学生受入れと学生、教職員の派遣」「地域国際化支援」のそれぞれの分野において、その目標・計画に沿って適切に実施されており、学生の満足度調査でも高い評価を得ている。

以上のことから、目的の達成状況が良好であると判断する。

(3) 優れた点及び改善を要する点

【優れた点】

- ・3大学国際ジョイントセミナー&シンポジウムは、本学が中国とタイの協定校との連携により1994年以来継続して開催している国際的学術活動であり、本学学生への高い教育効果を上げている。2011年には、インドネシア・ボゴール農科大学がホスト大学に加わり、本シンポジウムへの参加大学も、インドネシア、マレーシアなどのASEAN諸国に拡大しており、東アジア・東南アジアを中心に学生が交流できる貴重な機会になっている。
- ・アジアの大学との連携による国際インターンシップ(生物資源学研究科・工学研究科)、ダブルディグリープログラム(教育学部・生物資源学研究科)、アジア・アフリカの大学との連携による海外臨床実習(医学部医学科)など学部の特徴を活かした国際化教育が実践されている。
- ・医学部における早期海外体験実習及び海外臨床実習は、優れた取組みとして二つのGPの選定を受けて推進したが、事業終了後の文部科学省による現地調査でも高い評価を受けた。事業終了後も、大学院国際推薦制度の導入による交流大学との相互互恵的な関係の構築、アジア・アフリカを重点地域とする協定大学の拡充を図ることで海外における教育研究基盤を形成し、これら教育活動を持続発展性のある活動にしていることが評価されている。また、2013年度にはザンビア大学、本学及び藤田保健衛生大学との3大学での取り組みに発展するなど他大学への波及効果も生まれている。
- ・2014年3月に医学系研究科の大学院国際推薦制度の取組みを基盤とした、文部科学省国費外国人留学生優先配置を行う特別プログラム「アジア・アフリカにおける保健医療人材育成ネットワーク形成プログラム」が採択された。
- ・工学研究科「工学研究科国際シンポジウム(2012年度)」には、大学院生を中心に約400名が参加し、博士前

期課程学生の半数が英語による研究成果発表を行った

- ・外国人留学生受入れについても、数値目標を掲げ、その達成に向けての体制整備・教員能力向上・滞在施設の整備などにも取り組んでいる。

【改善を要する点】

該当なし